



菅波 茂

この世の中に辺境最深部という  
ものがあるとすれば一体どこなの  
だろうか。あるとすれば下記の三  
つの条件をもった人達がいるとこ  
ろである。

1) 誰もあなたに関心をもって  
いません。

2) 誰もあなたを必要としてい  
ません。

3) 誰もあなたのことを覚えて  
いません。

誠につらい状況だろうと推察さ  
れる。世界の奥地や秘境といった  
地理的条件がすべてと錯覚しては

いけない。基本は人間関係である。  
日本の日常生活にも同様の状況は  
よくみられる。

## 辺境最深部への回帰

のか。それはコンボで痛みつけら  
れたアルバニア人の痛みがわから  
ないからではないのか」などであ

政治的な立場からの  
批判はよく受ける。「な  
ぜミャンマーの軍事政  
権と協力してまでメッ  
チラーというところ  
で、人道援助活動をす  
るのか。それはミャン  
マーの民主化を遅らす  
ことになるのでは」。  
「なぜセルビアのベオ  
グラードにいるコンボ  
からのセルビア人避難  
民に救済チームを送る

る。

メッチラー近郊の村の子ども  
の栄養失調は、週2回の昼食を8  
週続けると回復する。アルバニア  
人であろうとセルビア人であろう  
と救いのない女性は黙々と編物を  
繰り返えし、精神の空白を埋めて  
いる。自分は見捨てられていない  
と思った時に絶望から希望が芽生  
えてくる。必要とされていると思  
った時から生きるエネルギーがわ  
いてくる。

「あいさつ」と「感謝」の言葉。  
人道援助の基本にして不可欠の言  
葉である。この二つの言葉を携え  
て、AMD Aは「必要とされれば  
どこへでも行く」ことを続けたい。

(アツア医師連絡協議会代表、  
題字は筆者)